

三月九日

2330



陸軍省 陸文普受 第六八號

驚特第三 三 三 三

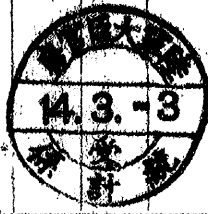
自殺者ニ關スル件報告

第二十一師團長 鷲津 鈞 平

陸軍大臣板垣征四郎殿
首題ノ件別紙ノ通り報告ス



陸



東京 徳川館

自殺者ニ關スル件報告

一 所屬部隊官等級氏名

歩兵第八十二聯隊第二機關銃隊

陸軍歩兵伍長

二月日時

昭和十四年二月五日午前五時二十分

三場所

中華民國江蘇省銅山縣徐州東兵營

四手段

自己ニ支給セラレタル十四年式拳銃ニ依リ自殺シタルモ

ノニレテ該彈藥ハ討伐ヨリ帰還直後自ラ攜帶セ

ルモノヲ使用ス

五 自殺前後ノ状況

昭和十四年一月二十三日蕭縣及永城縣附近討伐出

陸軍

勤ニ際シ自己銃劍ノ見當ラサルヲ知り極力之ヲ搜索セルモ發見シ能ハス取敢ハス自己所有ノ軍刀(日本刀)ヲ中隊長ノ許可ヲ受ケ佩用シ残留員ニ調査ヲ依頼シ出發セリ。

討伐間ハ經ハス該銃劍ノ見當ラサルヲ煩悶セルモノ、如ク沈ミ勝ナリシカ二月四日討伐帰還直後依頼者ニ結果ヲ尋ネタル處發見ニ至ラサルニ日答ハタルヲ以テ兵器掛下士官ニ申出兵器倉庫等ヲ調査セルモ依然發見ニ至ラス悶々ノ裡ニ午後十時半頃就寢セルモ過失ノ責ニ睡眠シ能ハス遺書三通ヲ認メタルモノ、如シ

二月五日午前五時二十分頃松橋伍長ノ呻聲ニ隣室ニ就寢中ノ同中隊中島軍曹目覺醒シ之ヲ發見スルニ到リ直ニ中隊長ニ報告ス。

(納谷 森・京風)

陸軍

憲兵立會ノ下ニ軍醫之ヲ檢スルニ自ラ拳銃ヲ以テ左
胸部(心藏部)ニ母貝通銃創ヲ負ヒ自殺シタルモノナリ

六原因

責任觀念旺盛ナル爲自己銃劍紛失ノ責ニ堪ヘ兼不
遂ニ死ヲ決シタルモノト認ム

七故意又ハ不可抗力ノ別

故意

八既遂未遂ノ別

既遂

九其他必要ト認ム事項

一本人ノ認メタル遺書三通ハ別紙寫ノ如ク
又本人ノ性格

強憤シテ責任觀念強ク志操堅固ナリ、

遺書寫(小隊長ニ宛タモノ)

表書

大隊砲小隊長

佐々木少尉殿

内容

伍長

小隊長殿

ノ下士官トシテ兵模範タル(キ身ガ戰場デ魂タル

帶劍才粉矢セシハ軍人トシテ許サルヘキ者ニアラス

自決シ

又、渡支以來御世誥ニテ厚ク御禮申上マス

御身大切ニ益々奮闘セヨトヲ祈ル

家ノ者ニハ小隊長殿ヨリ宜敷ク御言傳下サイ

陸軍

0342

④ 右御願迄

討伐續成表ト馬匹名簿ヲ同封ニテオキマス、

(納付書・馬車)

實兄ニ宛テモノ(表書)

中支隊遺岡村部隊氣付

赤間部隊工藤隊

大兄

裏面

北支隊遺鷺津部隊

堀井部隊中島部隊石井隊

弟ヨリ

内容

兄ニ據ル日五ノ午紙今日(三月四日)討伐多帰ル見マシタ

嬉シイヤラ

自分ハ軍人トシテ不名譽此ノ上モナキ事ヲ出カレテスマイマ

陸軍

スタ帯剣ヲ粉失シタノデス

軍人ノ魂ヲ下士官トシテ兵模範トナラナケレバナラナ

イ身ガ 責任上自決スル

兩親ノ元ニ行キ訛ヲシマス兄弟三人ヨリナイ此ノ弟ガ

最後ノ願ハ俺トニ人分ノ働ヨシテ下サイ、又萬一故郷ニ

歸レタラ俺ノ命モ孝ヲ盡シテ下サイ、

親鬼心ニまさる親心

今日ウをとりぬなんと聞くとん

(船谷島・京風)

分隊一同ニ宛テモノ

表書

大隊砲

ニ分隊一同様江

内容

第三分隊一同様

以後益々元氣ヲ頑張テ下サイ

御世誥ニナツテ事ハ死ニテモ志レナイ

身体ニ注意ニテ奮闘ニテ下サイ

後件分隊長ニハ今迄通り誠心ヲモツテ盡セ

菅ト伊藤ハ虫歯ヲ早ク治療ニテナラセヨ

兵器ト馬ハ大切ニシテ下サイ



伍長

陸

軍

東郷 助川 附